慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	略歴 ; 主な業績
Sub Title	A brief personal history and publications 私の略歴 : 主な業績
Author	辻, 幸夫(Tsuji, Yukio)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2022
Jtitle	教養論叢 (Kyoyo-ronso). No.143 (2022. 2) ,p.269- 279
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	辻幸夫先生・武藤浩史先生・太田昭子先生・ジェームズ・レイサイド先生退職記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062752-00000143-0269

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

略　歴

辻　　幸　夫

学　歴

1975 年 6 月　米国イリノイ州 Stephen Decatur High School 卒業
1976 年 3 月　山梨県立甲府第一高等学校卒業
1976 年 4 月　慶應義塾大学文学部入学
1980 年 3 月　慶應義塾大学文学部卒業
1984 年 4 月　慶應義塾大学大学院文学研究科前期博士課程入学
1986 年 3 月　同課程修了
1986 年 4 月　慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程入学
1989 年 3 月　同課程修了

職　歴

1980 年 3 月　独立行政法人国際交流基金就職
1984 年 5 月　同基金，進学のため円満退職
1987 年 4 月　慶應義塾大学文学部非常勤講師
1988 年 4 月　慶應義塾大学法学部助手
1991 年 4 月　慶應義塾大学法学部専任講師
1993 年 4 月　日本女子大学非常勤講師（1993 年 9 月まで）
1994 年 3 月　英国ロンドン大学客員研究員（1996 年 6 月まで）
1994 年 4 月　慶應義塾大学法学部助教授
1994 年 9 月　英国オックスフォード大学客員研究員（1996 年 3 月まで）
1997 年 10 月　慶應義塾大学国際センター（兼担）（1998 年 1 月まで）

1998 年 10 月　同 国際センター（兼担）（1999 年 1 月）
1999 年 4 月　慶應義塾大学法学部教授
2002 年 10 月　慶應義塾大学教養研究センター
2002 年 4 月　慶應義塾大学文学部（出講）
2003 年 4 月　清泉女子大学大学院非常勤講師（2005 年 3 月まで）
2003 年 8 月　金沢大学大学院非常勤講師（2003 年 9 月まで）
2008 年 10 月　信州大学非常勤講師（2009 年 2 月まで）
2012 年 4 月　慶應義塾大学大学院文学研究科（出講）
2012 年 10 月　慶應義塾大学自然科学研究教育センター
2017 年 10 月　慶應義塾大学言語文化研究所運営委員

学会・社会活動

1989 年 4 月　公益財団法人 AFS 日本協会評議員（1993 年 3 月まで）
1999 年 4 月　全国高校生留学・交流団体連絡協議会評議員（2002 年 3 月まで）
1999 年 4 月　公益財団法人 AFS 日本協会理事（2007 年 3 月まで）
2000 年 9 月　日本認知言語学会事務局代表（2005 年 9 月まで）
2005 年 9 月　同学会理事（2009 年 9 月まで）
2004 年 5 月　習志野市教育委員会学校評議員
2005 年 10 月　慶應英文学会副会長
2006 年 12 月　独立行政法人大学入試センター企画委員（2011 年 3 月まで）
2009 年 9 月　日本認知言語学会副会長（2013 年 9 月まで）
2012 年 11 月　日本認知言語学会学会誌『認知言語学研究』編集委員
2013 年 9 月　日本認知言語学会会長・理事長（2019 年 12 月まで）
2019 年 12 月　日本認知言語学会名誉会長

その他，日本認知科学会，日本神経心理学会ほか正会員
公益財団法人日本英語検定協会英検 1 級面接委員などを歴任

主な業績

1. 編著・共著・分担執筆

『認知言語学大事典』（編集主幹）辻幸夫，（編集）楠見孝・菅井三実・野村益寛・堀江薫・吉村公宏，朝倉書店，2019 年.

『新编 认知语言学百科』（編集）华东理工大学出版社，2019 年.

『よくわかる言語発達 改訂新版』（分担執筆），（編集）岩立志津夫・小椋たみ子，ミネルヴァ書房，2017 年.

『ことばのおもしろ事典』（共著），（第 7 章「意味の意味とは何か？」担当），（編集）中島平三，朝倉書店，2016 年.

『日本語大事典』（分担執筆），（編集代表）佐藤武義・前田富祺，朝倉書店，2014 年.

『新編 認知言語学キーワード事典』（編著），研究社，2013 年.

『ヒトはいかにしてことばを獲得したか』（共著）正高信男・辻幸夫，大修館書店，2011 年.

『認知言語学研究の方法―内省・コーパス・実験』（監修）辻幸夫，（編集）中本敬子・李在鎬，ひつじ書房，2011 年.

『「学び」の認知科学事典』（分担執筆），（第 IV 部第 4 章「言語の習得」担当），（監修）佐伯胖・（編集）渡部信一，大修館書店，2010 年.

『언어의인지과학사전』（編集），Pakijon Press，2008 年.

『心とことばの脳科学』（共著）山鳥重・辻幸夫，大修館書店，2006 年.

『新版 日本語教育事典』（分担執筆），（編集）日本語教育学会，大修館書店，2005 年.

『인지언어학키워드사전』（編集），Hankook Publishing Company，2004 年.

『認知言語学への招待』（編著）大修館書店，2003 年.

『認知言語学キーワード事典』（編著）研究社，2002 年.

『ことばの認知科学事典』（編著）大修館書店，2001 年.

『英語学文献解題第 2 巻言語学 II』（分担執筆），（監修）寺澤芳雄，研究社，2000 年.

『英語の意味』（共著），（第 8 章「意味の習得」担当），（編集）池上嘉彦，大修館書店，1996 年.

2. 翻訳書

『言語は本能か―現代言語学の通説を検証する』（共訳）辻幸夫・黒滝真理子・菅井三実・村尾治彦・野村益寛・八木橋宏勇，開拓社，2021 年.

『比喩と認知―心とことばの認知科学』（監訳）辻幸夫・井上逸兵，（翻訳）小野滋・八木健太郎・出原健一，研究社，2008 年.

『ことばをつくる―言語習得の認知言語学的アプローチ』（共訳）辻幸夫・野村益寛・出原健一・菅井三実・鍋島弘治朗・森吉直子，慶應義塾大学出版会，2008 年.

『認知言語学のための 14 章（第 3 版）』（共訳）辻幸夫・鍋島弘治朗・篠原俊吾・菅井三実，紀伊國屋書店，2008 年.

『認知言語学のための 14 章』（翻訳）紀伊國屋書店，1996 年.

『認知意味論―言語から見た人間の心』（共訳）池上嘉彦・河上誓作・辻幸夫・西村義樹・坪井栄治郎・梅原大輔・大森文子・岡田禎之，紀伊國屋書店，1993 年.

3. その他著書

『しゃべる英会話電子ブックビジュアル版 起きてから寝るまで表現 550』（共著・解説），Active English 編集部編，アルク，1992 年.

『起きてから寝るまで表現 550（海外旅行編）』（共著・解説），Active English 編集部編，アルク，1990 年.

『コミックで覚える生きた英会話「感情・客観的な表現編」』（共著），Active English 編集部編，アルク，1989 年.

『コミックで覚える生きた英会話「意志を伝える表現編」』（共著），Active English 編集部編，アルク，1989 年.

『起きてから寝るまで表現 550』（共著・解説），Active English 編集部編，アルク，1989 年.

4. 主な論考

「漢字仮名交じり表記法の認知科学」『ことばと文字』14:102-113，2021 年.

「学際研究としての認知言語学を捉え直す」『日本認知言語学会論文集』15:577-587，2015 年.

「コミュニケーションと心・言語について考える：認知科学の立場から」『東京都公立学校難聴・言語障害教育研究教育 50 周年記念紀要』（42）:13-41，2013 年.

「名詞句の飽和性と見立て―非飽和化の諸相」（共著，小屋逸樹，辻幸夫）『教養論叢』134:17-33，2013 年.

「無助詞文とは何か」（共著，小屋逸樹，辻幸夫）『慶應の教養学』297-312，2008 年.

「認知言語学の周辺―学際性と実証性」『英語青年』CLIV 3:16-19，2008 年.

「認知科学の展開と応用の可能性」『英語教育』35（9）:28-30，2006 年.

“Stance-indexicals and language behavior.”（with Ippei Inoue）*Language and Understanding and Action Control*（Annual Project Report: Grant-in Aid for Creative Basic Research）, 21-30, 2006.

「戦略的比喩と言語行動：予備的考察」（共著，辻幸夫，菅井三実）『教養論叢』125:21-40，2006 年.

“Interjection as action indexical from a cognitive and sociolinguistic perspective.”（with Ippei Inoue）*Language Understanding and Action Control*（Annual Project Report: Grant-in Aid for Creative Basic Research）, 19-28, 2005.

“Discourse markers: link words as action indexicals.”（with Ippei Inoue）*Language Understanding and Action Control*（Annual Project Report: Grant-in Aid for Creative Basic Research）, 17-23, 2004.

「言語と思考と行動を結ぶ比喩：認知言語学的考察と今後の展望」『言語理解と行動制御』（学術創成研究年次報告），27-32，2003 年 .

“Figuration: a cognitive integration of language, thought, and action.” *Language Understanding and Action Control*（Annual Project Report, Grant-in Aid for Creative Basic Research）, 21-30, 2003 年 .

「認知的隠喩研究に向けて」『日本認知言語学会論文集』2:272-275，2002 年.

「高校生留学の意義と今後の課題」『留学交流』11（9）:2-5，1999 年.

「認知言語学の見取り図」『言語』27（11）:46-53，1998 年.

“Computer terminology in Japanese: the need for analogy, figuration and semantic transparency.” *Geibun-Kenkyu*（73）:494-507，1997 年 .

「認知科学から見た意味」『言語』26（9）:60-68，1997 年.

“A note on the cognitive theory of metaphor and emotive language.” *Poetica* 46: 15-39, 1996 年 .

「パソコン用語の認知意味論」『言語』25（9）:50-57，1996 年.

「感情の言語とメンタルモデルに関する一考察」『教養論叢』95:67-97，1994 年.

「認知言語学の考え方」（共著，辻幸夫，坪井栄治郎，西村義樹）『言語』22（4）:78-83，1993 年.

「領域固有と領域中立的知識の再構築―モジュール性と理論的諸問題」『教養論叢』94:31-47，1993 年.

「カテゴリー化の能力と言語」『言語』20（10）:46-53，1991 年 10 月.

“Metaphorical mapping as a tool of verbalization and conceptualization.” *Kyoyo-Ronso* 83:77-93, 1990 年 .

“（Review article）*Women, Fire, and Dangerous Things: What Categories Reveal about the Mind*. Chicago: Univ. of Chicago Press, 1987.”『英文學研究』65（2）:310-315, 1989 年.

「カテゴリー化とプロトタイプ効果の再考」『教養論叢』94:31-47，1989 年.

“Temporal expressions and spatial metaphor.” *Daito Review of Arts and Letters* 3: 67-76, 1987 年 .

“English verbs of quantitative change.” *Geibun-Kenkyu* 49:1-20, 1986 年 .

“A note on the lexical structure of the English verbs referring to the quantitative changes in

spatial dimensions. “ *Daito Review of Arts and Letters* (2): 98-112, 1986 年 .

5. 総説・解説・その他

「春のサイテン」『三色旗』840:1，2022 年

「チョムスキーを超えて―普遍文法は存在しない」（監修）『日経サイエンス』5:52-58，2017 年.

「意味の三角形―意味研究への誘い」『言語学出版社フォーラム，リレーエッセイ』，2010 年.

「言語起源の研究動向」『言語』38（10):60-61，2009 年.

「これからの認知言語学」（山梨正明，辻幸夫，籾山洋介）『言語』38（10):8-17，2009 年.

「社会の中の脳［下］：心のしくみを探る」（岩田誠，山鳥重，河村満，辻幸夫）『言語』38（3):10-17，2009 年.

「色彩と白の認知科学」（共著，辻幸夫，鈴木恒雄）『國文學』54（3):56-65，2009 年.

「社会の中の脳［中］：心のしくみを探る」（岩田誠，山鳥重，河村満，辻幸夫）『言語』38（2):10-17，2009 年.

「社会の中の脳［上］：心のしくみを探る」（岩田誠，山鳥重，河村満，辻幸夫）『言語』38（1):10-17，2009 年.

「創造する脳，伝える脳［下］（認知科学のフロンティア探訪 15)」（岩田誠，山鳥重，辻幸夫）『言語』36（3):8-15，2007 年.

「創造する脳，伝える脳［中］（認知科学のフロンティア探訪 14)」（岩田誠，山鳥重，辻幸夫）『言語』36（2):8-15，2007 年.

「創造する脳，伝える脳［上］（認知科学のフロンティア探訪 13)」（岩田誠，山鳥重，辻幸夫）『言語』36（1):8-15，2007 年.

「ニューラルネットで脳科学に迫る［下］（認知科学のフロンティア探訪 12)」（浅川伸一，辻幸夫）『言語』35（12):10-17，2006 年.

「ニューラルネットで脳科学に迫る［中］（認知科学のフロンティア探訪 11)」（浅川伸一，辻幸夫）『言語』35（11):10-17，2006 年.

「ニューラルネットで脳科学に迫る［上］（認知科学のフロンティア探訪 10）」（浅川伸一，辻幸夫）『言語』35（10）:10-17，2006 年.
「精神医学から心を探る［下］（認知科学のフロンティア探訪 9）」（大野裕，辻幸夫）『言語』35（9）:10-17，2006 年.
「精神医学から心を探る［中］（認知科学のフロンティア探訪 8）」（大野裕，辻幸夫）『言語』35（8）:10-17，2006 年.
「精神医学から心を探る［上］（認知科学のフロンティア探訪 7）」（大野裕，辻幸夫）『言語』35（7）:10-17，2006 年.
「「学び」の認知科学［下］（認知科学のフロンティア探訪 6）」（渡部信一，辻幸夫）『言語』35（6）:10-17，2006 年.
「「学び」の認知科学［中］（認知科学のフロンティア探訪 5）」（渡部信一，辻幸夫）『言語』35（5）:10-17，2006 年.
「「学び」の認知科学［上］（認知科学のフロンティア探訪 4）」（渡部信一，辻幸夫）『言語』35（4）:10-17，2006 年.
「脳が操る知覚の変容［下］（認知科学のフロンティア探訪 3）」（柏野牧夫，辻幸夫）『言語』35（3）:10-17，2006 年.
「脳が操る知覚の変容［中］（認知科学のフロンティア探訪 2）」（柏野牧夫，辻幸夫）『言語』35（2）:10-17，2006 年.
「脳が操る知覚の変容［上］（認知科学のフロンティア探訪 1）」（柏野牧夫，辻幸夫）『言語』35（1）:10-17，2006 年.
「高校生にとって留学とは何か」（辻幸夫・鳥飼玖美子・見世理恵）『英語教育』51（12）:38-43，2003 年.
「言語能力の土台は何か（認知科学との対話 12）」（正高信男，辻幸夫）『言語』31（12）:98-105，2002 年.
「感動を科学する（認知科学との対話 11）」（徃住彰文，辻幸夫）『言語』31（11）:82-89，2002 年.
「言語障害からことばを捉える（認知科学との対話 10）」（山鳥重，辻幸夫）『言語』31（10）:76-84，2002 年.
「動物の心を探る（認知科学との対話 9）」（渡辺茂，辻幸夫）『言語』31（9）:84-

91，2002 年.
「談話分析への招待（認知科学との対話 8)」（伝康晴，辻幸夫）『言語』31（8):86-92，2002 年.
「メタファーの基本用語」『言語』31（8):24-25，2002 年.
「子どもの認知能力を探る（認知科学との対話 7)」（内田伸子，辻幸夫）『言語』31（7):88-94，2002 年.
「意味をどう捉えるか（認知科学との対話 6)」（土屋俊，辻幸夫）『言語』31（6):80-87，2002 年.
「認知言語学が目指すもの（認知科学との対話 5)」（山梨正明，辻幸夫）『言語』31（5):84-92，2002 年.
「計算言語学から探る人間の知（認知科学との対話 4)」（辻井潤一，辻幸夫）『言語』31（4):82-89，2002 年.
「格と認識の基盤」『言語』31（4):36-37，2002 年.
「複雑系言語学への招待（認知科学との対話 3)」（池上高志，辻幸夫）『言語』31（3):94-101，2002 年.
「知識獲得のメカニズムを探る（認知科学との対話 2)」（楠見孝，辻幸夫）『言語』31（2):90-97，2002 年.
「認知言語学への招待（認知科学との対話 1)」（安西祐一郎，辻幸夫）『言語』31（1):76-84，2002 年.
「日本認知言語学会設立記念大会」『英語青年』146（9):39，2000 年.
「メタファとインタラクティブソフトウェア」『日本ソフトウェア科学会講習会資料シリーズ（Japan Society for Software Science and Technology, Seminar Series)』，1999 年.
「言語学のフロンティア」『言語』25（8):120-125，1996 年.
「ことばとイメージ」『教養論叢』100:114-115，1995 年.
「生得論／構成論と領域固有／中立をめぐって」『英語青年』138（11):575-575，1993 年.
「日本の語用論研究に望む」井出祥子・辻幸夫・橋本良明『言語』22（7):20-41，1993 年.

「プロトタイプとカテゴリー論の動向」『英語青年』138（8）:416-416，1992 年.
「認知と比喩研究について」『英語青年』138（5）:243-243，1992 年.
「認知言語学の動向」『英語青年』138（2）:82-82，1992 年.
「周辺への期待」『三色旗』522，1991 年.
「ことばの痛み」『教養論叢』82:42-43，1989 年.
「外国語と私」『三色旗』486:18-21，1988 年.

6. 書評・文献紹介

［書評］「ことばと文化を考える」（文献紹介）『英語教育』66（7）:91，2017 年.
［書評］『解いて学ぶ認知言語学の基礎』（瀬戸賢一，山添秀剛，小田希望著，大修館書店）『英語教育』65（13）:90，2017 年.
［書評］『言語と身体性』（講座コミュニケーションの認知科学第 1 巻，岩波書店）『英語教育』64（1）:90-91，2015 年.
［書評］『認知意味論研究』（山梨正明，研究社）『英語教育』62（5）:95-96，2013 年.
［書評］『ことばの裏に隠れているもの―子どもがメタファー・アイロニーに目覚めるとき』（津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ訳，ひつじ書房）『英語教育』60（7）:92-93，2011 年.
［書評］『こころと言葉―進化と認知科学のアプローチ』（長谷川寿一，C. ラマール，伊藤たかね編集，東京大学出版会）『言語』38（3）:110，2009 年.
［書評］『メタファー研究の最前線』（楠見孝編集，ひつじ書房）『言語』37（2）:118，2008 年.
［書評］『言語科学の百科事典』（鈴木良次編集，丸善）『言語』36（4）:119，2007 年.
［書評］『言語科学の百科事典』（鈴木良次編集，丸善）『學燈』103（4）:53，2006 年.
［書評］『コミュニケーション障害入門』（太田富雄，岩田吉生，石坂郁代訳，大修館書店）『英語教育』54（9）:95，2005 年.
［書評］『《物》と《場所》の意味論』（久島茂，くろしお出版）『言語』31

（10）:118-119，2002 年.

［書評］「認知科学」（文献紹介）『言語』31（5）:40-43，2002 年.

［書評］『ことばの認知科学事典』（辻幸夫編，大修館書店）（新著紹介）『三色旗』648:34 2002 年.

［書評］『認知言語論』（定延利之著，大修館書店）『言語』29（5）:136，辻幸夫，2000 年.

［書評］『ことばの世界』（藤田実，平田達治編集，大修館書店）『ΠΑΠΥΡΟΣ』22:16-17，1985 年.

［書評］『言語のルーツ』（デレック・ビッカートン著，筧寿雄訳，大修館書店）『ΠΑΠΥΡΟΣ』21:24，1985 年.